

＜今日の説教のポイント テモテへの手紙Ⅰ 3章14節-4章5節＞

1 3章14-16節は、その前後の内容を読むと理解できる箇所。

3章14-16節はここだけ読むと何を言いたいのかよく分からないのですが、直前と直後に語られていることを考えると分かって来ます。

2 3章1-13節と4章1-5節を合わせ読むと見えて来ること。

先週の個所で、パウロは長老と執事の条件を語りました。なかなか厳しく思われる内容もありましたが、それは直後の4章1-5節で、むしろ「偽りを語る者たち」(2)が、誤った厳しさを求めて(3)、「信仰から脱落する者」(1)を「引き起こしている」(2)と語っているのを読むと、ただ正しさを厳しく追及しているのではないことが分かります。先週の箇所で出て来た表現で言いますと、長老と執事は正しさの追求ではなく、「品位」(3:4, 8, 11)をもって教会員や求道者にあたる人でなければならない、なぜなら、ただ厳しく当たるだけなら、それで傷つき「信仰から脱落する者」が生まれるから、とパウロが言っているのだということがはっきりと分かって来ます。

3 3章14-16節の真意 — キリストを見つめて立つ信仰者となれ。

以上、3章14-16節の前後の内容を把握すると、難解に思われたこの個所の内容がはっきり見えて来ます。パウロはまずエフェソの教会で起こっていることを気にしており(14-15a)、「神の教会はキリストによる神の恵みによって撃たれた者らしく(16a)、そのキリストの姿に倣って生きて福音を宣べ伝えよ(16b)」と教えているのです。4章3-5節を読むと、他者に目を光らせ、間違いを指摘する(「禁じたり、命じたりする」(3))のではなく、「恵みの神様に感謝し、共に喜びながら生きましよう」と呼びかけたくなる思いになります。最後の「**神の言葉と祈り**とによって聖なるものとされるのです」(5)は、「世界を造られた神の言葉(創世記1章)の力を思って必要以上に心配せず、どんな状況に置かれても「あなたに信頼できますように」という私たちの祈りによって私たちは聖なるものとされる(神のものとされ、守られる)のですよ」とパウロは語りかけているのでしょ。創立記念日の今日、このキリストを見つめて主にある平安を覚え直し、長老と執事はもちろん、皆が、「自分はどうかだろうか。キリストに倣う言動をしているだろうか」と思い直し、主が喜ばれる教会を形成していきましょう!